

行事報告 『水あそび』

6月の半ばからスタートした水あそび。「今日は水あそびする？」と毎日楽しみにしています。感触を味わうどろんこや片栗粉スライム、毎朝摘み立ての自然の草花で色水を作り、草花を浮かばせてのジュース屋さんなどを満喫しています。新型コロナウイルス対策により、プールはありませんが、夏ならではのあそびの中でこどもたちが不思議さを感じ「どんな色が出るんだろう」「どんな匂い？」などワクワクする体験を大切にしています。

大きな葉っぱが
傘に変身！



土のくぼみの水
たまりでどろんこあ
そび。どんな場所も
自分たちだけのあそ
び場に変身。



8月の予定

- 18日(水) 避難訓練
- 20日(金) 誕生会
そらキャンプ説明会(5歳児)
- 28日(土) 園舎引っ越し
(休園日)
- 29日(日) 園舎お別れ会

9月の予定

- 6日(月) 避難訓練
キャンプごっこ
- 9日～10日 そらキャンプ
- 27日(月) 内科検診
- 29日・30日 園公開

毎月第3日曜日は
家庭の日です
『家族そろって
夕食を共にしましょう!』

家庭の日とは…各家庭が家族団らんの中
で愛情と信頼に結ばれた明るい家庭づくり
を推進するようすべての都道府県で取り組
んでいる活動です。

あすなろ オリンピック ～今日のベストショット～

とうもろこしのおひげ～

にじ組

ジュース屋さん(色水あそび)

つき組

泥パックで綺麗になりますように…

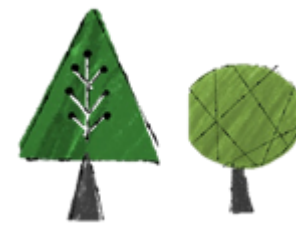
ほし組(たんぽぽ)

はな組

いないいないばあで笑顔に

そら組

ティーはいかが？(自然物で色づくり)



あすなろっこ



490号

令和3年8月1日発行

社会福祉法人岡山こども協会 あすなろ保育園
〒709-0802
岡山県赤磐市桜が丘西3-14-19
TEL (086) 955-5665



QRコードもご利用ください。

<https://asunaro.okayamakodomokyokai.jp>

検索

共に育ちあうパートナーであること

先日、園内研修で『“こども主体の保育”の現在地』のセミナーを受けました。そして、それを踏まえて、そら組(5歳児)を対象に研究保育を行いました。“研究保育”とは、他職員が担当(研究する)クラスの活動の様子を見て、こどもたちの育ちについて話し合う機会をもつことです。私が考える『主体性』はこども発信の「したい」を保育者が拾い、そのあそびがこどもたちで展開されることだと感じています。研究保育当日の主活動は『ケーキづくり』に決まりました。これは前々日のこどものつぶやきからきたものです。こどもたちも前日までは「ケーキづくりをする」という気持ちでいました。しかし、当日の朝、給食室の職員の「野菜のヘタ置いとくね(その日の給食の食材が分かるように保育室に飾っています)」の一言で「野菜スタンプがしたい」という声もあがりました。朝の集まりで『ケーキづくり』に必要な準備物をこどもたちと確認したものの、集まりが終わると思い思いのあそびを始めました。「あれ？ケーキづくりは？」と思いましたが自分であそびを見つける姿(主体性)を考え、様子を見ることにしました(野菜スタンプがしたい子は自ら絵の具を用意し、鉄棒がしたい子はマットを用意し…。ケーキづくりをしたのは数名でした)。

「今日はこのあそびをしよう」と自分であそびを選んで遊ぶ姿も主体性だと感じます(もちろん、みんなが同じことをしなくてもいいと思っています)。しかし、研究保育実践後の話し合いで「自分であそびは選んでいるけれど、それは本当にしたいあそびだったのだろうか?」「そのあそびにどれだけ満足感を得られているのだろうか?」という意見が出ました。

選ぶ過程で保育者がどんな“ヒント”を出すかで、こどもの創造力や探求心は広がり、深まります。“こども主体の保育”というのはとても奥が深いですが、その中でも“結果”ではなく“過程”を大切にしたいと感じます。大人が「今日はこれをします」「こうしてください」と“指導者”になるのではなく、こどもたちの『つぶやき』をヒントに、どうしたら「やりたい・やってみたい」を叶えられるかを考え、サポートする“パートナー”でありたいと感じます。「やりたい・やってみたい」を発信できる力を育てるにはどうしたらいいか、引き続き目の前のこどもたちの育ちを丁寧にみること・話し合うことを、職員間で大切にしたいです。

森 有梨花



4歳児 ほし組(たんぽぽグループ)

つぶやきコーナー



なすやきゅうりの水やりをしていた時のこと。

Aさん「なんだか元気がないなあ…」

Bさん「暑いから、しんどいかな?」

Aさん「この水をあげたら、元気になるよ」

Bさん「だって、魔法の水だもんね!」

AさんとBさんが会話をする中で、単なる水が魔法の水となり“植物が元気になるように”という優しい思いをもっている姿にほっこりしました。

生活 わき組

自立心



—こどもの姿—

自分のマークが付いているロッカーからオムツを出したり、バケツにオムツを入れたりしています。自分のマークを認識できるように「〇〇ちゃんのマークどこかな?」「あったね」と丁寧に声を掛けて伝えています。自分のマークがわかると「ここ」と指して自分で後片付けにも挑戦しています。

—保育者の思い—

少しずつマークに興味が出てきているので、あそびの中にマーク探しを取り入れ、自分や友だちのマークを覚えられるようにしています。マークがわかることにより、“自分のもの・場所”への認識につながるようにしています。

あそび ほし組(れんげ)

言葉による伝え合い



—こどもの姿—

カブラ（積み木）を高く重ねてカブラタワーを作っています。一人が作り始めると、「私も入れて」とこどもたちが集まります。「ここにおいて」「そっちが崩れそう」と声をかけながら楽しそうに積み重ねていきます。崩れてしまった時も「あー」と残念そうですが「もう一回しよう」「次はもっと高くしよう」と奮起することもあります。

—保育者の思い—

“友だちと一緒に遊ぶと楽しい”ということに気づき、友だちの輪が広がっています。その中でも一緒に何かを作る、目的を共有するということができるようになってきました。「こうしよう」「これはどうかな?」とお互いに言葉で気持ちを伝え合うことで、友だちの輪、あそびの輪を広げていきたいです。

食事 そら組

健康な心と体・自立心
数量や図形、標識や文字などへの
関心・感覚



—こどもの姿—

食べたい友だちと食べたい場所を決めて食べたい時間（終わりの時間は決まっています）と一緒に食事ができることで、会話を楽しんだり、友だちに見守られながら苦手の食材を食べたりしています。

楽しい雰囲気での半面、会話に夢中になり時間を忘れることもあります。しかし、自分で決めたからこそ「〇（時間）までにおわるぞ」と時計を意識するようにもなっています。

—保育者の思い—

座席表ボード（番号表示）に自分のマグネットを貼ることで、ボードと机に表示された同じ番号を探すので、数字の理解にも繋がっています。また決まった時間内の好きなときに食べることで自己決定場面を持てるようにしています。”自分たちの生活”を感じて欲しいです。

※ ←この部分には、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を載せています。

10の姿とは…①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現 です。

工事現場の今!

～新園舎ができるまでの道のり～

8月末に引っ越しをする新園舎の中の様子です。新しい木のいい香りがしています。どこに何を配置しようか想像しながら新園舎の中を見学した保育者たちです。新園舎、楽しみです。



はな組保育室にある小上がリです

2階に繋がる階段です



ケヤキの木の吹き抜けがあります!

コロナ禍でも楽しめる

いろいろなポーズをとって遊ぼう!

- ①「あんなこと、こんなことができますか?」と言いながら、好きなポーズをとる。
- ②「できますよ」と言いながら、①の人がしているポーズの真似をする。



大人が大げさなくらいにやると「面白いポーズ!」とこどもが大笑したり、「できるかな…」と言いながら一生懸命に真似をします。こどもが先に行くと、変な顔や面手を頼に添える可愛いポーズなどをする姿が見られるかも…。大人もこどもも楽しく身体を動かすことができ、ちょっとしたエクササイズにも繋がります。

意外と知らない



保育園の裏側

保育園には、約15種類の食器があります。「食べる量が増える」「スプーンですくいやすく」など成長する過程に応じて食器の大きさが変わります。中にはお枚680円の食器も。陶磁器で提供することで、本物に触れ、扱い方を知ったり、陶磁器の重みを感じたいしながら食事をして欲しいという思いがあります。